2014年8月19日~9月6日、今年で8度目となる中欧国際協力研修が実施され、国際文化交流学部の1~3年生が参加しました。研修先は2011年以降、クロアチア、マケドニア、セルビア、モルドヴァ、オーストリアとなっていますが、今年もこの5ヵ国を訪問しました。これらの国々は、かつてはオーストリアまたはユーゴスラヴィアやソ連に属していた国々ですが、今からちょうど百年前の1914年に第一次世界大戦が勃発し、まさに主要な戦場となった地域であることから、今年の研修は特別なものとなりました。

研修開始以来8年目となったクロアチアにおいては、今年も日本大使館を表敬訪問しましたが、以前に同大使 館に草の根委嘱員として勤務した経験のある、日本文化学科卒業生の川畑さやかさんが今年の5月より今度は専 門調査員として再び同大使館に勤務していることから、四宮次席、竹矢書記官と共にブリーフィングをして下さ いました。研修参加者にとって大先輩の活躍は大きな刺激になりました。また、ザグレブ大学で日本語を学んだ ハリスさんが今年も自宅に夕食に招いて下さり、ボスニア系の家庭料理をいただくことができました。日本難民 センターでは難民の子供たちがますます増えており、文化交流の際には大賑やかでした。プレハブ棟も見学させ ていただき、日本が支援し、建設した施設で難民の方々がどのような生活を送っているのかを垣間見ることがで きました。クロアチア最終日には同国北部のザゴリエ地方を周遊し、中世以来のトラコシチャンの古城を見学し、 かつてのユーゴスラヴィア時代の最も重要な指導者であったティトーの生家をクムロヴェツ村にて訪れました。 続いて滞在したマケドニアは5回目の訪問となりました。同国では NPO 日本紛争予防センター(JCCP)など で長年、活動してきたミラン・イヴァノフスキさんに今年も大変お世話になりましたが、国際コミュニケーショ ン学科を卒業し、マケドニアに在住している森川真衣さんとご主人のボバン・ストイマノフスキさんにも各地を 案内していただきました。 首都スコピエではアレクサンダー大王の銅像や凱旋門をはじめとして、 巨大なモニュ メントが聳え立っており、マケドニア人のナショナリズムの高まりが感じられますが、国内西部ではマケドニア 国内であるにもかかわらず、街道沿いにはアルバニアの真っ赤な国旗が数多く掲げられているなど、国内の民族 対立が先鋭化しているのが感じられます。そのような状況を改善すべく、JCCP が実施してきたストゥルガ市で の地元の小学生との清掃のワークショップに、研修参加者は今年も積極的に参加しました。クマノヴォ市では2 泊のホームステイも行ない、マケドニア人のホスピタリティーに研修参加者は心を打たれたようです。国立劇場 での文化交流では華道、茶道、書道、折り紙、日本舞踊などが披露され、大いに盛り上がりました。

3 か国目のセルビアは 2011 年以来、訪問しています。今年も JICA バルカン事務所では阿部所長をはじめ、山崎ヴケリッチさんや伊藤隆一さんのお話を伺いましたが、日本大使館では黒木大使のブリーフィングを拝聴する機会に恵まれました。それだけでなく、菅野書記官のご配慮により首都ベオグラードの近郊のパンチェヴォ市内にある老人ホームを視察することができました。これは 2 年ほど前に「草の根・人間の安全保障無償資金協力」により様々な器材が日本より供与された施設です。老人の方々がいらっしゃることから写真撮影は遠慮したため、以下に写真は掲載しておりませんが、地元のテレビ局が取材しており、研修参加者の訪問の様子が 2 分半ほど放映されることになりました(下記の URL より動画をご覧下さい)。老人ホームの建物の入り口には日本の国旗も掲げられ、リクライニングベッド 60 台及び付属品 60 セット(床ずれ防止マットレス、ベッド脇引出し、ベッド付食事用テーブル、防水マットレスカバー)、油圧式入浴補助リフト 2 台、シリコンクッション 20 個、歩行補助器 4 台、車椅子 5 台、シャワーチェア 10 台、大型洗濯機が重宝され、今も大切に使われていることに研修参加者は強い印象を受けました。セルビアではベオグラード大学日本語学科の山崎洋先生や宮野谷先生、学生さんたちと一緒にドナウ川沿いを歩くなどして交流したことも良い思い出となりました。

その後、研修参加者はウィーンを経由して旧ソ連の南西端に位置するモルドヴァ共和国に入国しました。欧州 最貧国ともいわれる同国ではテレネシュティ郡のカザネシュティ村に足を運び、農家で一泊しました。ニワトリ やアヒルなどの家畜の鳴き声で目覚め、井戸で汲んだ水で顔を洗うというのは貴重な体験となりました。この村 の小学校の一部には、日本の民間支援団体であるモルドヴァ復興支援協会が設置したデイケアセンターで、20 名程度の子供たちのお世話をしました。親が遠く離れた国外に出稼ぎに行ってしまい、寂しい思いをしている子 供たちは年1回の学女生の来訪を心待ちにしており、今年も2日間、一緒に過ごすことができて大喜びでした。 研修最後に滞在したウィーンでは今年もウィーン国際センターを見学し、国連、国際原子力機関(IAEA)、 国連工業開発機関(UNIDO)が施設の様子をじっくりと目にすることができました。また、在オーストリア日本大使館を表敬訪問し、竹歳大使と小笠原書記官による貴重なブリーフィングを賜りました。

毎年、研修で以上の国々を訪れて実感するのは、いずれも親日的で魅力あふれる国々であるにもかかわらず、 残念ながらあまりにも知られていないということです。これらの国々の良い面を様々な形で幅広く伝えていくこ とも国際協力の一つであると考えています。

本研修では数えきれないほど多くの方々にお世話になりました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

追記

以下はパンチェヴォ市のテレビ局によるプレスリリースの文章です。英語とセルビア語で記されています。

PRESS CLIPPING:

Media present at the event:

-TV Pancevo

-"Pancevac" Newspapers

TV Pancevo

http://rtvpancevo.rs/Vesti/Lokal/delegacija-japana-u-poseti-gerontoloskom.html

Date: 29th August 2014

DELEGATION FROM JAPAN VISITING GERONTOLOGY CENTER

PANCEVO, 29th August 2014 (TV Pancevo)-Group of students from Japan, together with Professor at the Faculty for International Studies-Mr. Takfumi Nakajima and representatives of the Embassy of Japan arrived today to Pancevo. On this occasion they have visited Gerontology Center in order to see how their donation is used by this institution which received this donation two years ago.

Students of the Faculty for International Studies visited Pancevo at the initiative of their professor-Mr. Takafumi Nakajima, who brought the first group of students to Serbia in 2011. He said that he got the idea to introduce Serbia to his students after he heard that Serbian people had provided significant assistance to his country after earthquake which struck Japan that year.

- I was very impressed. I thought that it was very important for my students to visit your country and since then, every summer I am bringing nine or ten students to Serbia- said Mr. Takafumi Nakajima.

Ms. Shiho Nakafunaki, one of students which have visited Gerontology Center in Pancevo, said that similar institutions are functioning differently in her country.

-We have such institutions in Japan, but I was very surprised by warmth of this institution and the fact that all users of this institution look very happy. That left the strongest impression on me, said Ms. Shiho Nakafunaki-Student.

Employees took guests on tour of this institution in order to introduce them with usage of Japanese donation, which was received two years ago.

- After we have visited this institution, I can say that I am very satisfied that our donation is used in such a noble way. Also I am very happy that our donation made the users happier. That is very good, said Mr. Yoshifumi Kanno-First Secretary at the Embassy of Japan.

Director of the Gerontology Center-Mr. Milentije Maksimovic said that he would not be able to imagine functioning of this Center without this assistance.

-I would like to use this opportunity to once again express our gratitude to the people of Japan, Embassy of Japan and Ambassador. We received donation in value of about 85,000 EUR and all funds were used to provide assistance to our users which are in most difficult situation, such as immobile patients and elderly persons. With these funds we procured sixty beds and mattresses, same amount of feeding tables and small closets, ten wheelchairs for shower, five walking aids, one laundry machine and some smaller items which are located at the physical therapy room, said Mr. Milentije Maksimovic-Director of the Gerontology Center.

Japanese delegation was greeted by Ms. Suzana Jovanovic-Member of the City Council in charge of Social Affairs. On behalf of all people from Pancevo, she used this opportunity to express gratitude for all assistance which was provided to our city from the people of Japan.

Delegacija Japana u poseti Gerontološkom

PANČEVO, 29. avgust 2014. (TV Pančevo) – Grupa studentkinja iz Japana, zajedno sa profesorom Fakulteta za internacionalne studije Takafumi Nakađimom i predstavnicima Ambasade Japana u našoj zemlji, danas je stigla u Pančevo. Ovom prilikom obišli su Gerontološki centar da bi videli kako je iskorišćena njihova donacija koju je ova institucija dobila pre dve godine.

Studentkinje Fakulteta za internacionalne studije u posetu Pančevu došle su na inicijativu svog profesora Takafumi Nakađime, koji je prvu grupu studenata u posetu našoj zemlji doveo još 2011. godine. On kaže da je na ideju da svoje studente upozna sa Srbijom došao nakon što je čuo da je od srpskog naroda njegovoj zemlji stigla značajna pomoć posle zemljotresa koji je te godine pogodio Japan.

- Bio sam veoma impresioniran. Mislio sam da je značajno da moji studenti posete vašu zemlju i od tada, svake godine, odnosno leta, dovodim devet-deset studenata u Srbiju, rekao je Takafumi Nakađima.

Šiho Nakafunaki, jedna od studentkinja koja je posetila Gerontološki centar u Pančevu, kaže da slične institucije u njenoj zemlji drugačije funkcionišu.

- I u Japanu imamo ovakve institucije, ali me je ovde najviše iznenadila toplina ove ustanove, kao i to što su svi korisnici jako srećni. Na mene je to ostavilo najjači utisak, rekla je Šiho Nakafunaki, studentkinja.

Zaposleni su posetioce poveli u obilazak ustanove kako bi im pokazali kako je iskorišćena donacija Japana, koju je ova institucija dobila pre dve godine.

- Nakon što smo obišli ovu instituciju mogu da kažem da sam zadovoljan zato što su našu donaciju iskoristili na plemenit način. Veoma sam srećan i zbog toga što ih je naša donacija učinila srećnijim. To je vrlo lepo, rekao je Jošifumi Kano, prvi sekretar u Ambasadi Japana.

Direktor Gerontološkog centra Milentije Maksimović kaže da ne bi mogao da zamisli funkcionisanje doma bez ove pomoći.

- Prilika je da još jednom zahvalimo japanskom narodu, Ambasadi i ambasadoru. Dobili smo donaciju od oko 85.000 evra i kompletna donacija je posvećena našim najtežim korisnicima, odnosno nepokretnim odraslim i starim osobama. Tim novcem smo kupili šezdeset kreveta i dušeka, isto toliko stolova za hranjenje i noćnih ormarića, deset toaletnih kolica, pet kolica za hodanje, mašinu za pranje veša i bilo je još nekih sitnih stvari kada je u pitanju kabinet za fizikalnu terapiju, rekao je Milentije Maksimović, direktor Gerontološkog centra.

Delegaciju Japana pozdravila je i Suzana Jovanović, članica Gradskog veća zadužena za socijalna pitanja, koja je ovom prilikom u ime svih Pančevaca zahvalila na pomoći koju su građani Japana uputili našem gradu.



8/19 成田空港より出発(JTB コーポレートセールスの戸田明菜さん(日本文化学科卒業生)によるお見送り)





ウィーンにてオーストリア航空のザグレブ行のプロペラ便に乗り換え





左右2人ずつしか座れないような小型機は研修参加者にとっても初めての体験



ザグレブ到着。「クロアチアにようこそ。EU にようこそ」という看板が昨夏より掲げられるようになっている



「クロアチア、EU。2013年7月1日、クロアチア共和国: EU 新規加盟国」という印象的な看板の前で





20 時、日本語を学んでいるハリス・タンコヴィッチさんがザグレブ市内のホテル・アストリアに迎えに来て、今年もご自宅に夕食にご招待いただく。今回も中庭のテーブルには日本とクロアチアの国旗が掲げられている





作りたてのパイなど、美味しいボスニア料理をいただく。イスラム教徒のため、アルコール飲料は飲まれない。 ザグレブ大学日本語学科の日下部先生(左)もご同席



奥に座っていらっしゃるのが、料理の達人のハリスさんのお母さん



8/20 市内の中心部に聳え立つイェラチッチ総督の銅像



表敬訪問のため在クロアチア日本大使館へ





次席の四宮臨時代理大使による冒頭のご挨拶の後、研修参加者が自己紹介



続いて専門調査員の川畑さやかさんと竹矢書記官のブリーフィングを受けた後、質疑応答



ブリーフィングの後の集合記念写真



中欧風の美しい日本大使館の建物の前で





ホテルに戻る途中の書店で IKEBANA と記された本を目にする





今年度初めて訪れた美術工芸博物館





洒落たデザインのアールヌーヴォーの家具などの工芸品が展示されている



ウィーン風の黄色のクロアチア国立劇場の前で



世界一短いとされるケーブルカーに乗って



クロアチア王国の紋章(左)とザグレブ市の紋章(右)とカラーのタイルの屋根が美しい聖マルコ教会の前で





クロアチアで最も有名なネクタイブランド CROATA 本店にて

郷土料理のレストラン「ヴィノドル」にて





ザグレブで日本語を学んでいる学生たちとの交流会。日本に関心を持つ若者たちとの会話がはずむ





竹矢書記官や研修参加者にとって大先輩の川畑さやかさんからもざっくばらんにお話を伺うことができる





8/21 青果市場では新鮮な野菜や果物、鮮魚が数多く売られている。市場の近くで華道用のお花を調達しておく



市場の入り口にはかごを頭に載せた女性の銅像。かつては重い物でもこのようにして運んでいたという





ザグレブ市よりボスニア・ヘルツェゴヴィナのある南東方向に向かい、マラ・ゴリツァ村の難民センターに到着





事務所には今も From the People of Japan と記されたステッカーや両国の旗、開所式の写真などが貼られている





日本文化交流のワークショップ開始。1人1人がクロアチア語で自己紹介

日本のお祭りの紹介





難民の子供たちに写真を見せながら茶道、合気道、十二単、和太鼓、お花見をクロアチア語で紹介





続いて折り紙や日本の夏 (ヨーヨー釣りやチョコバナナ) について説明する





華道を教えてあげる



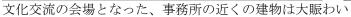


ペットボトルを半分に切ったものにスポンジを据えて花をいける。子供たちも興味津々











屋外で折り紙も



クロアチアでの生活が今年の 10 月 10 日で 44 年目になるという万寿美シティグリッチさんのお話を伺いながら 昼食





難民の女性たちが今年も素敵なレース編みを作っており、ボランティアで購入





難民の子供たちと手をつないで難民センターの敷地内を一緒に歩く





プレハブ棟の中を見学させていただく





ニワトリやガチョウも放し飼い







子供たちとのお別れ



夕方、ザグレブ郊外の共同墓地を見学





1928年に国会で撃たれて死亡したクロアチア農民党の政治家であるラディッチ(200クーナ紙幣に肖像画)の墓



クロアチア共和国初代大統領トゥジマンの墓







ザグレブ旧市街のアクセサリーの店で





8/22 クロアチア最北端にあるトラシコチャン城へ





入口の近くで思いがけずお花を渡される





丘の上の城が湖に投影されている





万寿美さんが作って下さったおにぎりを美味しくいただく

スロヴェニア近くのクムロヴェツ村の民家園へ





ティトーの生家を見学







夕方、ザグレブ国際空港へ。お世話になった万寿美さんとのお別れ



ウィーンに到着し、乗継のために1泊



8/23 スコピエ行の便に搭乗





「アレクサンダー大王」国際空港着。ミランさん、ボバンさん、森川真衣さん(国コミ卒業生)が迎えて下さる



マケドニアの赤と黄色の国旗が空港の建物の近くに掲げられている





最初にこの町で生まれたマザー・テレサの記念館を見学





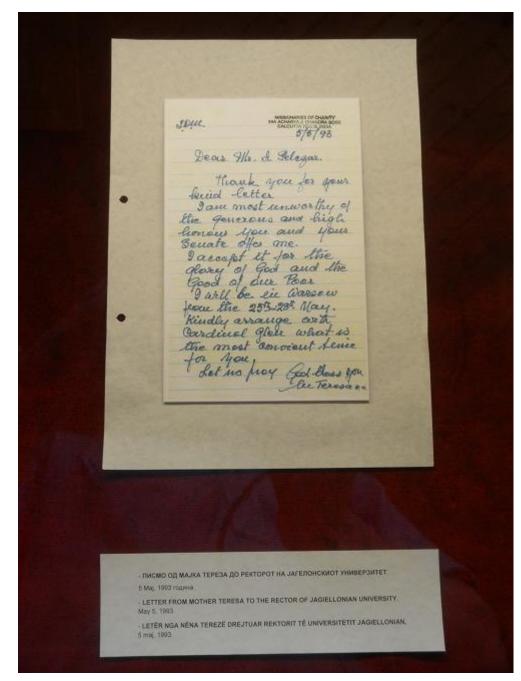




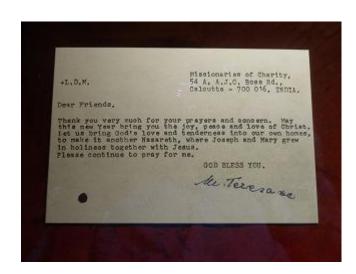




世界初のマザー・テレサに関する博士論文を執筆した工藤裕美さんの『宣教師マザーテレサの生涯』も紹介される



マザー・テレサ直筆の書簡も展示されている





記念館の入り口の近くで



マザー・テレサの銅像の前で



「国家と独立のためのマケドニア人の闘争の博物館」を今年は初めて見学。日本語を話せるクリスティーナさんも





市の中心部に聳え立つアレクサンダー大王や聖キュリロスと聖メトディウスの銅像の近くを通り過ぎて





スコピエ市内の旧バザール地区にて。モスクの尖塔が背後に見える



アレクサンダー大王の父、フィリッポス2世の銅像



マケドニアとアルバニアの国旗も目立つ



アレクサンダー大王の銅像の向こうのベンチで一休み



アジア人は珍しいのか、写真を撮るよう求められる



観光客用の馬車が走るようになってきており、試しに乗ってみる



8/24 アルバニア系住民が過半数を占めるストゥルガ市へ。 街道沿いにもアルバニア国旗が多い



民族分断の川の橋で



川の向こう側はアルバニア人居住区。 真っ赤なアルバニアの国旗やTシャツばかりが売られている



反対側はマケドニア人居住区 マケドニア・グッズが売られている



民族分断の川に沿って歩く



ストゥルガ市西部のホテル「真珠」の目の前はオフリド湖





オフリド湖の名産の真珠のネックレスやイヤリングをお土産に



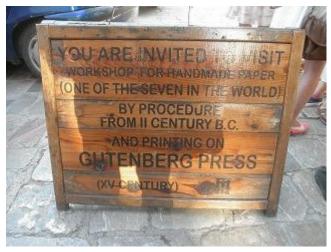






手作りの紙漉きの工房も見学









聖ソフィヤ聖堂を見学した後で





古代の円形劇場の跡地で





今では見かけることも少なくなった社会主義時代の国産車「ユーゴ」



聖パンテレイモン教会にて



Piano Summer Ohrid に飛び入りで参加



夕食時にマケドニア人の子供たちが民族衣装を着て民族舞踊を踊ってくれる



研修参加者も一緒になって、マケドニアの民族舞踊を体験



8/25 朝、日本がストゥルガ市に寄贈した清掃用 の小型トラックは既にホテルの近くに待機している



オフリド湖を眺めながらの朝食



ホテルの前でオフリド湖を体感してみる



配布された NPO 日本紛争予防センター(Japan Center for Conflict Prevention)のお揃いの黄色の T シャツを着て



民族融和と環境保護のための清掃のワークショップへ



地元のマケドニア人の小学生とそれぞれ 2 グループに



ビニール手袋をはめて清掃用具を手にして準備万端。両国の国旗のある T シャツを着て一体感も高まる





炎天下の中、ゴミ拾いに精を出す





集められたゴミは次々に小型トラックに積まれていく





















ミランさんや小学校の先生も一緒になって作業する













清掃のワークショップが終了



記念写真撮影





清掃のワークショップの後の語らい





配布されたミネラルウォーターを飲みながら、お喋りをしていくうちにお互いの距離がぐっと縮まる





撮った写真を見せ合ったり、アドレスを交換したりする





Tシャツには日本とマケドニアの国旗やゴミ箱にごみを捨てているイラストもデザインされている









小学生がホテルからチェックアウトしてスーツケースを運び出すのを手伝ってくれる









一緒にバスに乗ってストゥルガ市中心部へ







フィリッポス2世が築いたヘラクレアの遺跡へ。見事なモザイク画が残されている















H

マケドニア南西部の古都ビトラへ。博物館を見学

ホロコーストの犠牲者となったユダヤ人の名簿



フィリッポス2世の銅像の前で







マケドニア北部のクマノヴォ市に到着。バスの中でユーロ大学の在学生、卒業生との顔合わせをし、ホームステ イ先を決める。夜は屋外の喫茶店で冷たい飲み物を飲みながら歓談





ククリツァ村のストーン・ドールズの前で。披露宴に出席した来賓が皆、石になってしまったという伝説 8/26



マケドニア北東部のクラトヴォの古い集落



パンを塩につけて食べる



昔の農家の様々な用具が残されている一軒家を見学



バグパイプを抱え、素敵な民族衣装を着たおじいちゃん



世界遺産新規登録候補となっているコキノ巨石 天文台遺跡の頂上にて









マケドニアの田舎では道路を山羊が通り過ぎることもしばしば



夕方にはクマノヴォ市内の国立劇場入り口のホールで文化交流のワークショップ。今度はマケドニア語で発表



流行の CUPS の披露



茶道には大人も興味津々



書道で漢字の体験







半分に切ったペットボトルにリボンが綺麗なアクセントになっている





折り紙にも熱中

書道。大人も子供も自分の名前を書いてほしいと求められ、次々に半紙が並べられる



お互いの名前を記して交換







毎年、ホストシスターになって下さるアニタ。Sakurako、Rei、Chika、Yui をキリル文字で書くと…



ホームステイ先での夕食。沢山の御馳走でお腹いっぱい。





8/27 クマノヴォ市内の国立劇場の入り口の前で

国立劇場の2階でバルカンにおけるJCCPの活動に関するレクチャー。 2010年のマザー・テレサ生誕百周年をきっかけに学習院女子大学の研修が始まったことにも触れられる



ベオグラードに向けてクマノヴォを出発。ホストファミリーとのお別れ



ベオグラードに到着。翌8/28 名門ベオグラード大学の文学部の建物の前で日本語学科の学生さんたちとのご挨拶





文学部の近くには中華料理の店「北京飯店」もある



でも瞬く間に打ち解ける



歩行者天国のクネズ・ミハイロ通りを一緒に歩く





緑豊かなカレメグダン要塞公園を一緒に歩く





日本語学科の学生さんたちが日本語を流暢に話すのに驚く





ベオグラードの要塞はドナウ川とその支流のサヴァ川が合流するところに面している





戦車も展示されている



ドナウ川を背にして





クロアチアから流れてきたサヴァ川とドナウ川が合流する地点で





聖ペトカ教会の入り口で神父さんに赤ワインを注がれる





日本の支援への感謝の気持ちを込めて設置された、ししおどしの泉を今年も見学





公園の近くのオーストリア大使館の前を通り過ぎる





セルビア正教大聖堂(右の写真)と道路を挟んで反対側にある建物



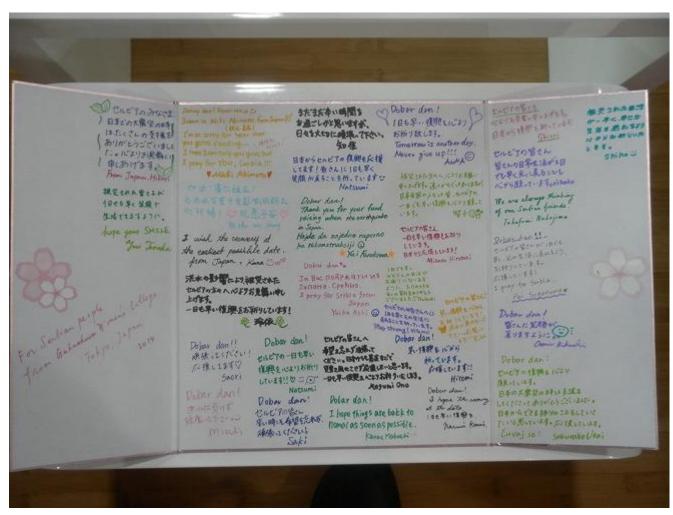




文学部の裏側の中庭のレストランで昼食



日本語学科の学生さんたちとのお別れ



今年の5月の大洪水へのお見舞いの気持ちを表した、本学の学生たちによる寄せ書きをお渡しする



JICA バルカン事務所にて。阿部所長によるブリーフィング



広報担当の山崎ヴケリッチさんも説明して下さる



ベオグラードで最高層の近代的な建物の中にある JICA バルカン事務所の応接室にて



JICA でいただいた資料を手に、建物の入り口で





しばしば映画の撮影現場となったホテル・ユーゴスラヴィアドナウ川の水上レストラン「アムステルダム」へ





日本大使館や JICA バルカン事務所の皆様との夕食会





8/29 在セルビア日本大使館表敬訪問



黒木特命全権大使にご一緒いただいて





「空爆通り」にてトマホークによって爆撃されたまま残されているビル



ベオグラード空港にて、マケドニアとセルビアですっかりお世話になったミランさんとのお別れ





8/30 ウィーン経由でキシナウ (モルドヴァ共和国の首都) 到着。花束をいただいて歓迎される





国立モルドヴァ美術館や国立モルドヴァ歴史博物館を見学。歴史博物館の入り口には古代ローマの狼の銅像



歴史博物館の正面玄関で今年もモルドヴァ滞在中にすっかりお世話になった元大統領首席補佐官のライサさんと





モルドヴァ国立大学

欧州安全保障協力機構(OSCE)のモルドヴァ事務所は立派な建物

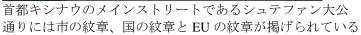




土曜日であったせいか結婚式を迎えたカップルをあちこちで目にする









8/31 テレネシュティ郡カザネシュティ村へ 村のお祭りの日で文化会館の前では様々な催し物



村の小学校5年生による民族舞踊







村の中にある小学校ごとにブースがある



デイケアセンターの子供たちも見つかる。毎年おなじみのヴァレリア(左手前)も綺麗な格好をしている





子供たちの絵や民芸品などの作品も展示されている



デイケアセンターの子供たちが花を持って迎えてくれる。美しい民族衣装を着た子供もいる





一人ずつ大きなパンをちぎって塩をつけて食べるという、伝統的な歓迎の儀式







研修参加者を前に子供たちのプレゼンテーション



モルドヴァの愛国的な詩を朗々と謳い上げる子供たち



後から駆けつけてきたヴァレリアと瞬く間に仲良くなって





広々とした食堂兼講堂で子供たちと一緒に昼食をとる



鶏肉や麺類の入ったスープ



お米や肉、野菜などが詰められたピーマン



和太鼓の DVD をじっと見つめる男の子



昨年度の日本舞踊大会優勝者の張瑋さんはこちらでも披露





モルドヴァの子供たちはとにかく踊るのが大好き



国外への出稼ぎで親のいない寂しさもしばし忘れる



来年、中学校を卒業するナタリアやリダはすっかり 大人っぽくなっている



隣の教室で書道。お互いの名前をひらがなと漢字で書いてみる







CUPS の練習





折り紙も一緒に





子供たちから思いがけずプレゼントをいただく。温かみのある素敵な陶器で大喜び





村の中を流れる川沿いへ。2年ぶりに一緒にマルモリダンス









川沿いを移動する羊の群れ



水がわき出ている場所に子供たちが連れていってくれる



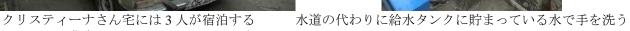














屋外のお手洗いに行く際には飛び回っているニワトリの間を通り抜けていく必要がある



クリスティーナさん宅の家の外で夕食



9/1 お世話になった農家の中庭で





井戸





モルドヴァの農家の部屋。絨毯が壁に掛けられているのも特徴の一つ



クリスティーナさんに見送られて



小学校に着くと始業式が始まっている



正装した9年生の生徒たち



可愛らしい1年生が新入生として祝福される



モルドヴァ共和国国旗が掲げられ、色とりどりの風船が華やか。来賓として一言述べる



多くの母親も参列



小さな男の子も蝶ネクタイの正装



がさな分の丁も味れブライの正表

小学校の廊下で



子供たちの作品





担任の先生と一緒に







センターの

カザネシュティ村の小学校(その一部の教室がデイケアセンターとなっている) 子供たちは日本語も習っている





今日も CUPS の練習





ライサさんのお孫さんのクリスティ(5歳半)にも折り紙を教える







子供たちはデジカメに興味津々



少し遅めの朝食をセンターの食堂でいただく





子供たちとのお別れ









昨夏は社会主義期から存在したクリコヴァのワイナリーを見学したが、 今年は比較的新しい近代的なシャトー・ヴァルテリのワイナリーを見学





スパークリング・ワインの製造過程を学ぶ



地下には大きな樽が並べられている



主要な販売品。国外へも輸出されている





モルドヴァで有名なゼアマというスープの昼食をワイナリーのレストランで



丘の洞窟に修道士が住んでいたオルヘイ・ヴェキ訪問



今年もヤギを見かける



川が弓なりに湾曲して流れている独特の地形。かつては海の底だったという



Bricana Cara

丘の上の教会を背にしてタ方、キシナウに戻る。モルドヴァのチョコブランド「ブクリア」で





シュテファン大公公園の入り口には新たに EU の模様の花壇が設置されている





ルーマニアとモルドヴァの国民的詩人ミハイ・エミネスクの銅像



ロシアの文豪プーシキンの銅像

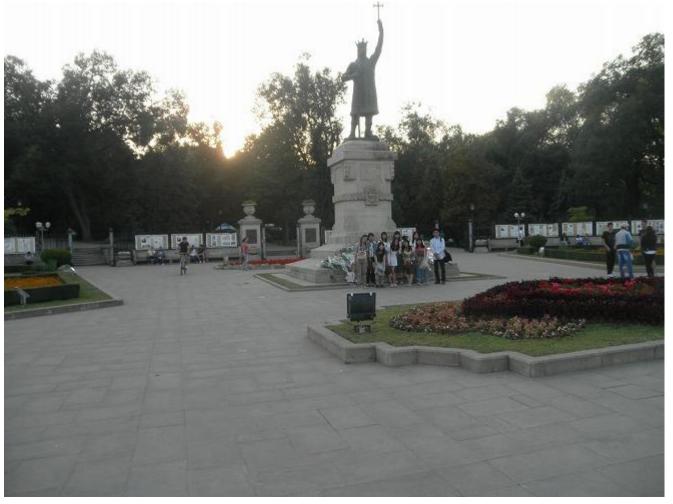




ルーマニアとモルドヴァで最も有名な歴史家ニコラエ・ヨルガの銅像



合気道を習っているという若者



シュテファン大公の銅像の前で







キシナウ市内のレストラン「キリン」にて思いがけずお寿司の夕食







9/2 モルドヴァ正教会の大聖堂の中を見学







社会主義期は閉鎖されていた大聖堂



屋外で売られている素敵な民族衣装





レース編みも売られている

夕方、ウィーン到着。レストラン Reinthaler's Beisl にて夕食





ターフェルシュピッツ、グラーシュなど、ウィーンで一般的な料理を味わう



9/3 ウィーン国際センター到着



ゲートへ向かう



まず平和の鐘を目にする

THE LONG STRUGGLE TO OUTLAW NUCLEAR TESTS



ほぼ毎夏案内して下さっているトーマス・バイアーさんに今年もガイドをしていただく



UNIDO の建物へ

S CTBTO



20世紀半ば以降の世界各国の核実験のモニターの前で



人身売買の展示の箇所は増えている



宇宙関連の展示コーナー







中国が宇宙へ打ち上げた展示物も大きく取り上げられている





月の石などの展示





日本語の字幕付きで国連の活動に関する VTR を視聴する





難民キャンプのテントの展示の前で









IAEA(国際原子力機関)に関する展示





戦争に駆り立てられる子供たちに関する展示



UNODC(国連薬物犯罪事務所)に関する展示



展示会議室も見学する





質疑応答も活発に行われる



中庭には国連加盟国の旗が ABC 順に掲げられている





各国の代表者の他に、NGO の座席も設けられている



会議室の上方には通訳のブースも設置されている



オペラ座の前で



ベルヴェデーレ宮殿にて



在オーストリア日本大使館表敬訪問。大使の執務室にお邪魔し、竹歳特命全権大使にお会いする



続いて会議室にて小笠原書記官よりオーストリアの概要などに関するブリーフィングを受ける



ショッテンリング通りの在オーストリア日本大使館の建物の前で



シュテファン大聖堂にて



書店には百年前の1914年に関する書籍が多数売られている





楽友協会の前で







黄金のホールにて





18世紀当時の衣装を着た楽団員から成るウィーン・モーツァルト・オーケストラの演奏



演奏会終了後に





9/4 世界遺産シェーンブルン宮殿にて





続いて王宮へ

夕方には美術史美術館へ。まずブリューゲルの『バベルの塔』を観る





フェルメールの『絵画芸術』やベラスケスの『青いドレスのマルガリータ王女』などの名画をじっくりと鑑賞





現地での最後の晩は毎年恒例のレストラン「グーテンベルク」へ。定番のシュニッツェルなどの夕食



デザートはザッハートルテ



ワルツ王ヨハン・シュトラウスの銅像



9/5 市立公園を散策。シューベルトの銅像の前で



モーツァルトハウスも見学



9/6 成田空港にて。無事、全員で帰国。一言ずつ述べ合って研修は終了、解散